

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2017.11.30 時点)

分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量	前回報告比*1 (2017.11.30)	変動理由*2	エリア 占有率	保管量**3 / 保管容量 (割合)	トピックス	
瓦礫類	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	B	屋外集積	0.01未満	2,800 m ³	0 m ³	—	85 %	162200 / 214300 (76%)	・フランジタンク解体片 エリアP1にて一時保管中。(2015年6月15日～) 2017年11月末時点で532基(コンテナ)保管。
		C	屋外集積	0.01未満	57,300 m ³	+100 m ³	①②③	91 %		
		F2	屋外集積	0.01未満	6,400 m ³	0 m ³	—	85 %		
		J	屋外集積	0.01	4,300 m ³	0 m ³	—	53 %		
		N	屋外集積	0.01未満	4,500 m ³	0 m ³	—	45 %		
		O	屋外集積	0.01未満	37,500 m ³	+200 m ³	④	73 %		
		P1	屋外集積	0.01	47,300 m ³	微増	—	74 %		
	U	屋外集積	0.01未満	0 m ³	0 m ³	—	0 %			
	V	屋外集積	0.01	2,200 m ³	+100 m ³	⑤	36 %			
	シート養生 (0.1～1mSv/h)	D	シート養生	0.01未満	2,600 m ³	0 m ³	—	58 %	27600 / 71000 (39%)	・エリアWは、車両解体(プレス等)及びエリア内配置整理により保管 量減。
E1		シート養生	0.01未満	13,100 m ³	+200 m ³	②	82 %			
P2		シート養生	0.01	5,500 m ³	微減	—	61 %			
W		シート養生	0.05	1,800 m ³	-100 m ³	⑥	6 %			
覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1～30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	12,000 m ³	0 m ³	—	100 %	21600 / 27700 (78%)	・主な瓦礫類は、1～3号機工事等で発生した瓦礫類。	
	A	仮設保管設備	0.25	4,600 m ³	+1,300 m ³	⑦	65 %			
	E2	容器**4	0.02	300 m ³	0 m ³	—	19 %			
	F1	容器	0.01未満	600 m ³	0 m ³	—	99 %			
固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物 貯蔵庫	容器**4	0.02	9,200 m ³	+100 m ³	⑦	77 %	9200 / 12000 (77%)	・主な瓦礫類は、1～3号機工事等で発生した瓦礫類。	
										Q
合計(ガレキ)				220,600 m ³	+1,800 m ³	—	68 %			
伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G	屋外集積	0.01未満	25,100 m ³	微増	—	63 %	96400 / 144500 (67%)	
		I	屋外集積	—	0 m ³	0 m ³	—	0 %		
		H	屋外集積	0.01	31,700 m ³	0 m ³	—	74 %		
		M	屋外集積	0.01未満	39,500 m ³	微増	—	88 %		
	V	屋外集積	0.01	100 m ³	微増	—	1 %			
一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	26,200 m ³	0 m ³	—	88 %	37300 / 41600 (90%)		
	T	伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100 m ³	0 m ³	—	94 %			
合計(伐採木)				133,700 m ³	0 m ³	—	72 %			
保護衣	屋外集積	容器	0.04	62,200 m ³	-1,300 m ³	⑩⑪	87 %	62200 / 71200 (87%)	・使用済保護衣等焼却量 2895t (2017年11月末累積) ・焼却灰のドラム缶数 608本 (2017年11月末累積)	
										合計(使用済保護衣等)
仮設	瓦礫類	U(仮設分)	屋外集積	0.01未満	700 m ³	0 m ³	—	—	・タンク設置スペース確保に伴い、エリアUより持込み。	
										合計(仮設運用エリア)

※1 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。

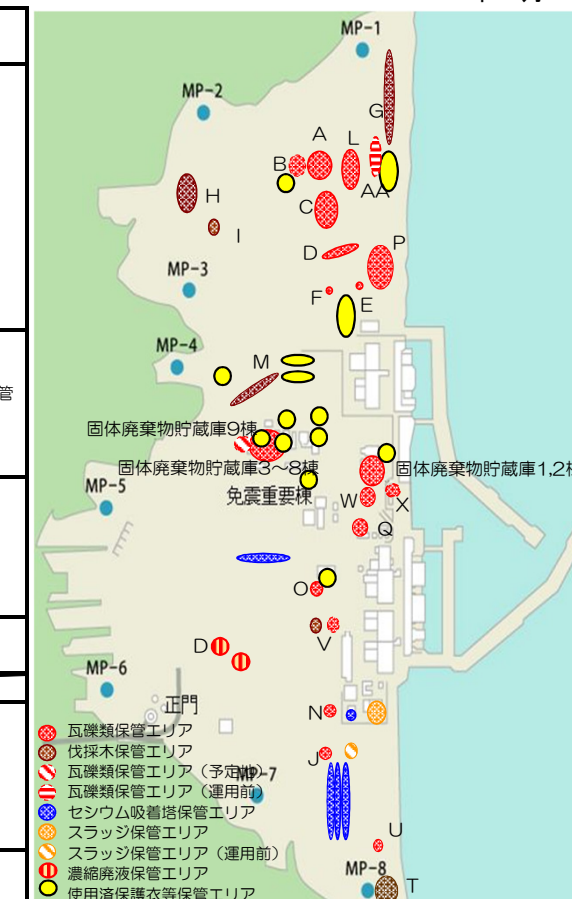
※2 主な変動理由：①エリア整理 ②1～4号建屋周辺瓦礫撤去関連工事 ③タンク設置工事 ④固体廃棄物貯蔵庫設置工事 ⑤焼却対象物の受入 ⑥車両解体工事
⑦一時保管エリアQから瓦礫の受入 ⑧瓦礫を一時保管エリアAに移動 ⑨瓦礫を固体廃棄物貯蔵庫に移動 ⑩焼却運転 ⑪使用済保護衣等の受入

※3 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。

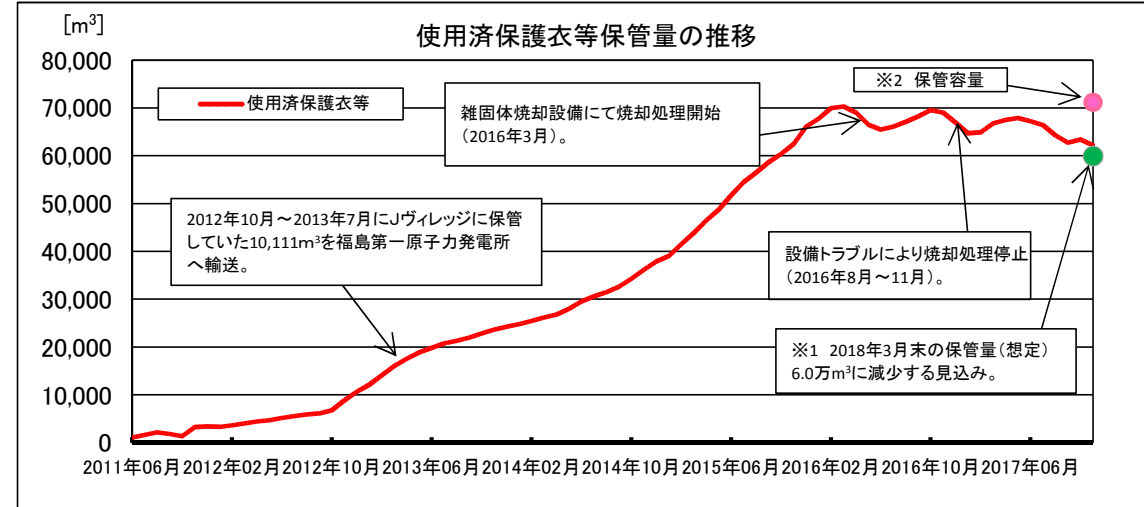
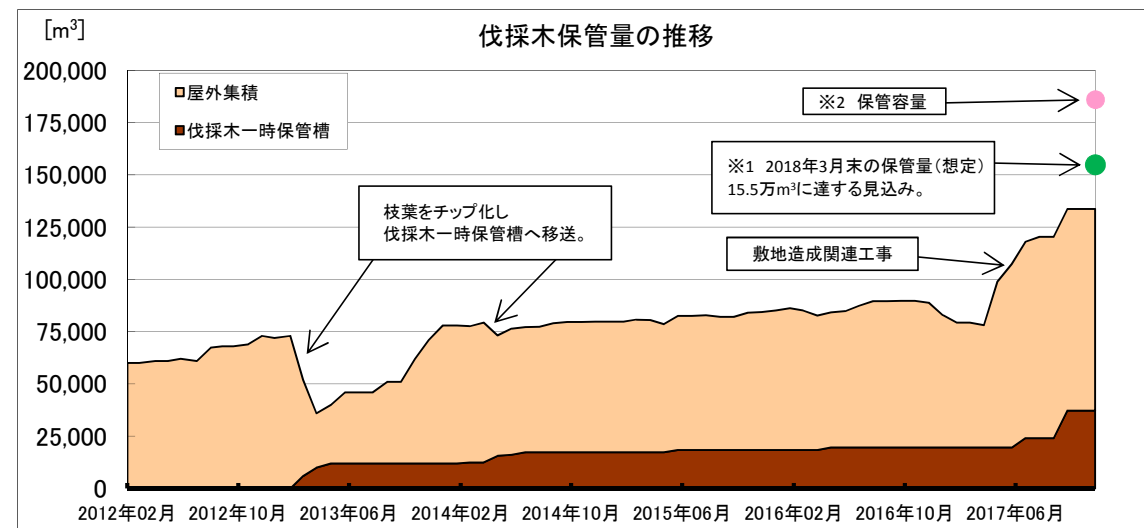
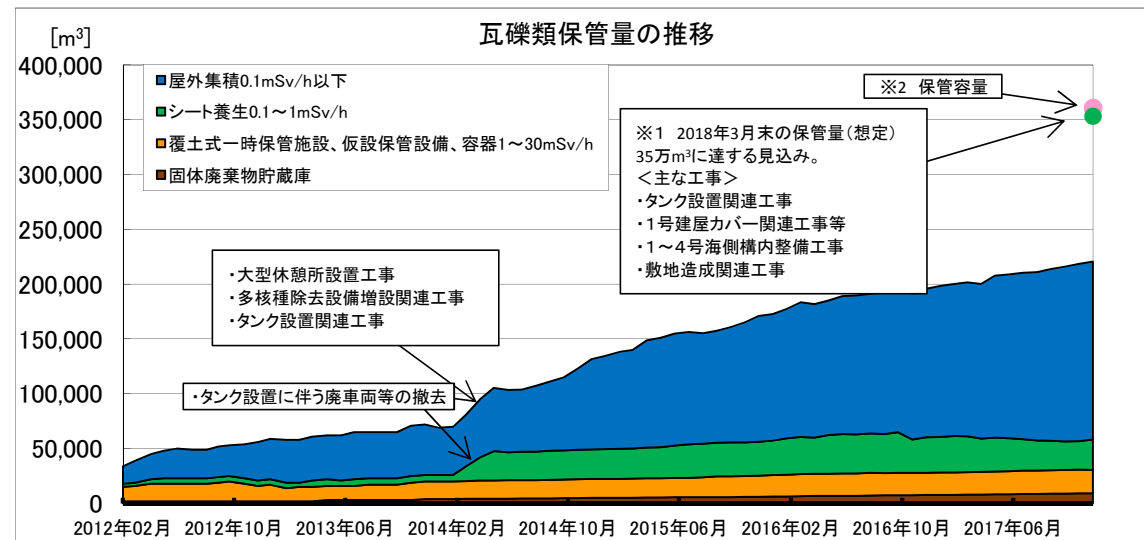
※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。

水処理二次廃棄物の管理状況(2017.12.7時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2017.10.26)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス
水処理 二次 廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済バケツ	759 本	0 本	3837 / 6368 (60%)	・吸着塔一時保管施設の増容量が認可(2015年12月14日) ・使用前検査完了(2017年5月26日)に伴う保管容量増(第四施設架台129塔分)
		第二セシウム吸着装置使用済バケツ	192 本	+2 本		
		多核種除去設備等保管容器	1,446 基	0 基		
		高性能多核種除去設備使用済バケツ	73 本	0 本		
		多核種除去設備処理カラム	9 塔	0 塔		
		モバイル式処理装置等使用済バケツ及びフィルタ類	195 本	0 本		
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ		597 m ³	0 m ³	597 / 700 (85%)	・除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 ・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。
		濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,341 m ³	-23 m ³	9341 / 10700 (87%)



瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2017.11.30 時点)



※1 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管量(想定)は、実施計画(2017年3月1日認可)の予測値を示す。
 ※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管容量は、実施計画(2017年3月1日認可)の保管容量の運用上の上限を示す。

水処理二次廃棄物の管理状況(2017.12.7時点)

